

やさしい病害虫講座 32

サツマイモの病害虫-1

木村 裕

[イモキバガ]

サツマイモの葉の一部が二つ折りにになっているのがよく見られます。これはイモキバガと言う小さな蛾のお子様が努力してこしらえたものです。

決して遊びでやったものではありません。ちゃんと生活がかかっています。

葉を開くと黒色で背中によく目立つ白い帯のある細長い虫があわ



ててとびだします。べっぴんさんでしよう？

二つ折りにした葉の内側は安全な住処すみかで悪い奴(鳥や蜂などの天敵)から身を守ってくれます。おまけに周囲の葉の壁は餌にもなっており、食と住が保証されています。お子様は腹が減ると、まわりの葉の壁をボリボリかじり齧りますので、葉の片面を食われた部分は褐色になって枯れます。成長につれ、つぎつぎに新しい住処へと移りかわりますので、捨て去った住居の葉は虫に食われた部分が穴になってボロボロに風化します。

サツマイモにごく普通に発生する虫で、少しく



らいなら無視しても問題はないでしょう。発生が多いと芋の肥大にも影響するかと思いますが、実態はよく分かっていません。

葉を開くと素早く逃げ去るので、取り逃がさないよう注意してください。また被害を受けた葉を

指で挟みこんで強く押さえるのも一つの防除法です。

[コガネムシ類]

丹精こめて栽培しお孫さんといっしょに掘り取ったイモの表面が浅く凹んで傷になっていることがよくあります。これはコガネムシさんのお子様がお先に頂戴したせいです。

コガネムシさんにはたくさんの親戚縁者がいますが、サツマイモにいたずらをするのはドウガネブイブイさん、アオドウガネさんが多いです。遠い親戚はカブトムシさんで、近い親戚はカナブンさんです。

子供さんの食べ物は、植物の根っこです。普段



はいろいろな野菜や花、雑草などの根をボリボリ齧っています。

そのため被害を受けた植物は根がなくなり、衰弱して枯れますが、被害が地面の中で徐々に進むため、犯人不明のまま処理されていることが多いです。

サツマイモの場合、イモの表面を浅く齧ります。イモの表面は見た目が悪くても中身は問題ありませんが、傷口から腐敗菌が侵入するので早く食べてしまうことです。

防除対策はありません。予防的にイモを植える



前に粒状の殺虫剤を畑の中に混ぜ込んでおく方法もありますが、

虫が卵を産む時期とずれるので期待するほどの効果はありません。予防的には成虫が誘引される有機物を畑にすきこまないことです。